

vol.45-12 (通算 513号)

2016年3月号

やどかり

2016年3月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 土橋 敏孝
〒337-0043
さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-686-9812

定価 50円(含会費)

一年の活動を総括し、将来のビジョンを共に考えよう

～ 2015年度 やどかりの里総括会議開催～

例年2月に行われるやどかりの里総括会議が、今年も13日に行われた。今年度取り組んできた私たちの活動を振り返るだけでなく、現在の私たちを取り巻く環境をもう一度確認するために、日本の情勢、社会福祉分野だけにとどまらず医療や介護、年金問題も含め幅広く社会を見ながら、この1年間を総括し、これからの活動ビジョンを描くために職員、メンバー、家族(全52人)が参加して行われた。

2015年度の各報告事項として、1. 国の動向、情勢として特に経済財政問題を中心にアベノミクスで現在行われていること、2. 障害者権利条約と障害者総合支援法を軸にわが国の障害者施策、障害基礎年金の障害等級判定ガイドラインの見直しについて、3. さいたま市の動きに注目して、ノーマライゼーション条例5年目の見直し、さいたま市における相談支援態勢と障害者支援の現状と課題について、4. やどかりの里の活動の1年、浜砂会・おやじの会(家族会)より活動報告、5. 単身生活者と40代家族同居者の実態調査を通して見えてきたこと、6. 地域づくりに向けて、が行われた。報告を受けつつグループに分かれての討論を行い、最後に全体討論で締めくくられた。

地域づくりに向けた2つの提案として、ここ数年取り組んできた「農福連携事業」がいよいよ事業活動として進み出し、やどかり情報館を連携事業のハブ(拠点、中心)として生産や加工、販売の各プロフェッショナルと対等な関係で事業を興していきたいという熱

意が語られた。

一方の「いきいきわくわく浦和プロジェクト」と題して、浦和地域活動支援センターの「地活未来構想マップ」の提案では、「障害」ではなく「市民」をキーワードに、地域への入口であり、出口でもあるような従来の発想ではない、より地域に開かれた拠点としての将来像が語られた。

私たちは障害者権利条約を、現実と理想(理念)との差異を計るものさしとして、権利条約を通じた視点で社会を捉えるよう心がけている。その意味では、どの報告も権利条約をベースにしつつ、現在の私たちを取り巻く環境を共有した会議となった。社会の動きは目まぐるしく、また安保法制の制定過程や生活保護基準切り下げ問題の例を持ち出すまでもなく、生活のしづらさ、閉塞感や息苦しさを感じている人たちは決して少なくない。

やどかりの里45年の活動の歴史とは、地域で生活し、活動し、実践を土台に社会に提案、発信することである。地域づくりにむけての2つの提案には多くのメッセージが託されており、これからのに向けての希望、具体的なビジョンが提案された。「こうなったらいいな」「こういうことがしたい」と率直に伝え、それに多くの仲間の協力を得ながらやどかりの里は活動を続けてきた。これからも変わらず、より具体的に提案し、広く社会に発信し、多くの仲間とともに行動を起こそうと、強く感じた1日となった。